

日本のテクニカル分析のレベルは世界最高

「ローソク足ボラティリティ」講演の概要と 2012 年 IFTA シンガポール大会の感想

林 則行

NTAAの活動実績は世界一

IFTA シンガポール大会で最も感じたことは「日本のテクニカル分析ならびに NTAA の協会活動は世界最高レベルにある」ということでした。同時に、レベルの高さが世界に伝わっていないと感じました。

例えば、協会の活動に関して。

NTAA では毎週1回以上各種セミナーが開催されています。この話をシンガポール大会参加者に話すと、一同舌を巻いていました。これほどの実績を誇る国は他になく、他を寄せ付けられないほどのレベルだからです。NTAA の会員数は約2200名。他国では会員数1200名程度の協会が2つあるだけで、世界最大です。

NTAA の活動が世界ではあまり知られていないにもかかわらず、日本の協会活動に高い関心を寄せている人たちが多くいることも初めて知りました。アジア圏の人たちです。経済発展に関してこれまで日本から学んできたアジアは、株式分析においても「日本から学ぼう」という姿勢が強く、協会活動やテクニカル分析全般について数多くの質問を受けました。

マレーシアやインドネシアからやってきた人たちは「写真を一緒に撮りましょう」と言って何回もシャッターを切っていました。それも、大会開催前の朝、会場に入る前に自己紹介をしていた時のことです。「日本から来た」というだけでぼくは特別待遇を受けている気持ちになりました。

日本罫線の素晴らしさを世界に伝える

日本は罫線分析の歴史の長さ、奥行きの高さからして世界最高水準にあります。江戸時代の米相場のころから罫線分析が始まっており、1日の4つの値段(始値、高値、安値、終値)をひとつの足に集約したローソク足は珠玉ともいえる存在だからです。

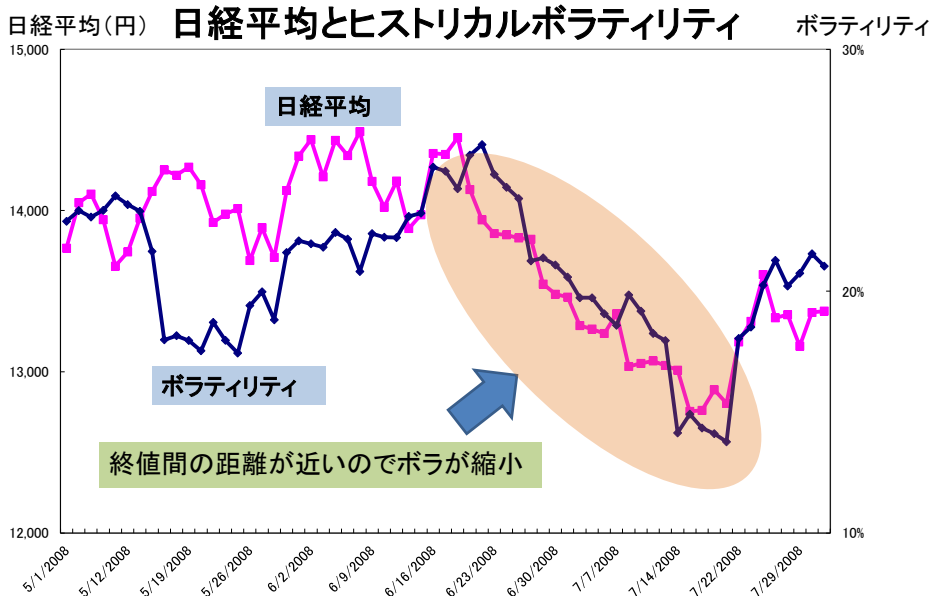
しかし、NTAA の活動が十分に世界に認識されていないように、ローソク足の素晴らしさも世界から十分な認知を受けていません。

今回の IFTA 大会でぼくはローソク足ボラティリティという全く新しいボラティリティについての話をしましたが、これは日本人ならば誰でも行っていることを突き詰めて考え、数値化したものにすぎません。

ローソク足の考え方を基本としたローソク足ボラティリティは従来のヒストリカル・ボラティリティに比べて、本当のボラティリティの大きさをとらえるという点でかなりの改善がなされています。

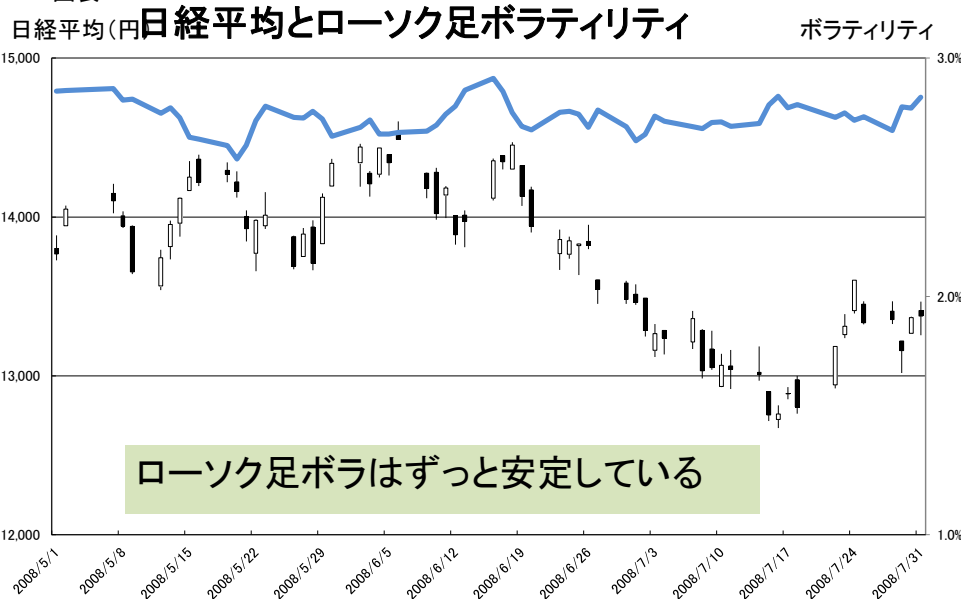
日経平均の08年5月～7月の動きを例に見てみましょう。日経平均が急落した際にヒストリカル・ボラティリティ(図表1)も急落しています。チャートを見ると日々の終値が近いことがわかります。終値間の距離が短いのでヒストリカル・ボラティリティは下がっているのです。

図表1



これに対して、図表2のローソク足ボラティリティにはほとんど変化がありません。日々のローソク足を見ると、その長さ(実体とひげの両方)にこの期間内で大きな変化がありません。つまり、この急落期間も株価の動きが停滞したわけではないのがわかります。そのため、ボラティリティは低下しなかったのです。

図表2



ローソク足の日足チャートを見れば、25%から15%へと急落したヒストリカル・ボラティリティに違和感を感じる人がほとんどでしょう。この例でわかるように、概してヒストリカル・ボラティリティは実勢を離れた動きをすることがあるのに対して、ローソク足ボラティリティはより実勢を反映しています。

その最大の理由はボラティリティの計測方法の違いにあります。ヒストリカル・ボラティリティは終値だけを用いて計算するのに対して、ローソク足ボラティリティでは4本(始値、高値、安値、終値)を用います。1つの株価を用いるよりも4つの株価を用いた方が実勢を反映しやすいのは明らかでしょう。

例えば、日々の気温の変化をとらえるのに、1日1回計測するのと、1日4回測るのではどちらがより正確でしょうか。

ローソク足ボラティリティは3倍の効率の良さ

そもそも、ボラティリティはテクニカル分析の中でどのように用いるものなのでしょうか。

実は、ボラティリティはテクニカル分析の中で最も有用なツールです。株はそれまでの高値を抜くと大きく上昇することが知られています。それまでは鳴かず飛ばずだった株が急に活火山のように爆発するのです。

しかし、その後すぐに天井を打ち、下落に転じる株も少なくありません。ではどのようにしたら、その後大きく上伸する爆発銘柄と、すぐに萎んでしまう偽物銘柄とを見分けることができるでしょうか。

投資で成功するにはこの見極めに精通することです。この際、私たちはあらゆる情報を使ってその精度を上げていきます。新高値に達した時点でのファンダメンタルやテクニカル情報、市場の状態などが重要な要因です。

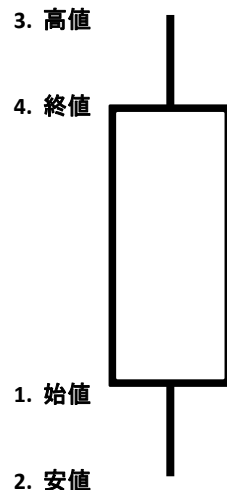
テクニカル分析に関してぼくが最も注目しているのはボラティリティです。さらに正確に言えば、「株を買う際にはボラティリティが低いほど成功確率が高い」ということです。日経平均を用いたある検証では、従来のヒストリカル・ボラティリティに比べて、3倍の効率の良さになりました。(検証の内容については講演録(英語)をお聞きください。)

チャートが読めれば、ローソク足ボラティリティはわかる

それではここでローソク足ボラティリティの基本的な考え方をお話します。

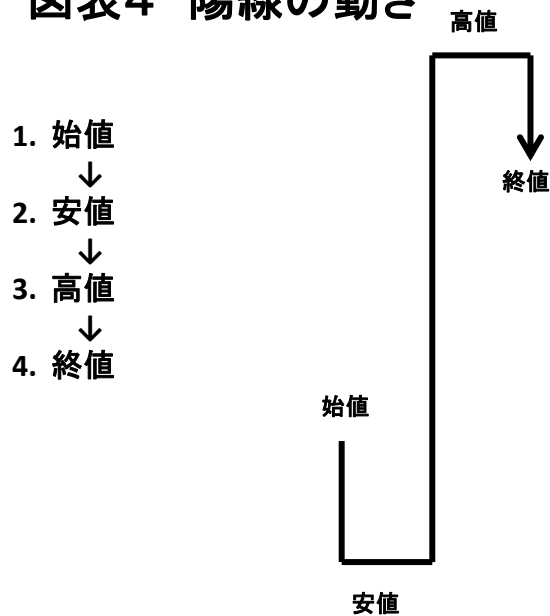
図表3に掲げたのは誰でも知っているローソク足の陽線です。NTAA の会員の方々ならば、このチャートの中のどこが始値、高値、安値、終値なのかは全員ご存じでしょう。

図表3 誰でも知っているローソク足（陽線）



ここでチャートの読み方を披露します。それが図表4です。陽線の場合は始値のあと、安値をつけてから、高値に向かい最終的に終値に達します。つまり、安値が先で高値があとです。陰線の場合はこの逆です。

図表4 陽線の動き



100%の確率でこのような順番になるわけではありませんが、私たち投資家はチャートを見た瞬間にそのように判断しています。

ここがローソク足ボラティリティの原点です。この考え方を基に、図表5のような定義を作りました。

図表5 ローソク足ボラティリティの定義

1日の株価の振動幅の合計

陽線の場合

$$= | \text{昨日の終値} - \text{当日の始値} | + | \text{始値} - \text{安値} | \\ + | \text{安値} - \text{高値} | + | \text{高値} - \text{終値} |$$

陰線の場合

$$= | \text{昨日の終値} - \text{当日の始値} | + | \text{始値} - \text{高値} | \\ + | \text{高値} - \text{安値} | + | \text{安値} - \text{終値} |$$

ローソク足ボラティリティの定義

ボラティリティ = 1ヶ月間の「1日の株価振動幅の合計」の平均 ÷ 1ヶ月間の終値の平均値 × 100

注) | | は絶対値

平たくいえば、「1日のボラティリティ＝日足において株価の動いた距離」と定義するという事です。チャートが普通に読める人に、「株価が1日に動いた距離をどうやって出すか」と聞いたならば、おそらく多くの人が同じように考えるはずで、従来のヒストリカル・ボラティリティが日々の終値間の距離(この場合は標準偏差をとる)を定義としているのとだいぶ違います。

この計算式に基づいてボラティリティを計算します。この公式で得られた数値(ボラティリティ)が4%未満であれば、株価に過熱感がなく、このまま上昇する確率が高いです。一方、6%以上の時は近いうちに株価が天井を打つ確率が高いです。4～6%の時はその中間の状態にあります。

ローソク足ボラティリティを日々の投資に生かす

ローソク足ボラティリティを用いて、日々の投資成績を向上するにはどうしたらいいのかが、一般の方々の最大の関心事でしょう。IFTA 大会ではこの点にはあまり触れませんでした。IFTA 参加者の多くがプロの分析家であり、ローソク足ボラティリティの本質、定義、従来のものとの差異が彼らの知りたいことだったからです。

従って投資への実践に興味をお持ちの方には講演録を聞いても得るところが少ないかもしれません。

一般の投資家の方々には、ぼくの書いた『株の絶対法則』(ダイヤモンド社)をお読みになるとをお勧めします。ここではヒストリカル・ボラティリティとの違いなどには全く触れておらず、実例を掲載しながら、「どう使うか」だけに焦点をあてています。

例えば、株価の勢いを測る買いシグナルについては、ローソク足ボラティリティは出来高に依ったシグナル以上にパワフルであることを説明しています。売りシグナルについては、カギ足の転換値幅をボラティリティの大きさによって日々変更する「売り転換線」を紹介しています。従来のカギ足に比べパフォーマンスがかなり改善できます。

* * *

欧米で4本値を用いたボラティリティの考え方がこれまで流行らなかった理由は、欧米では1日4本の値段の入ったチャートを見る機会が少ないからではないでしょうか。もし、欧米でローソク足が多用されていたならば、今回発表したローソク足ボラティリティといった考え方は既に欧米人の手によって開発されていたことでしょう。

ローソク足やカギ足といった日本古来の考え方を深掘りすることで、世界に通用する新しい考え方をまだ生み出すことができるのではないかとぼくは思っています。

2012年IFTA (国際テクニカルアナリスト連盟) シンガポール大会スポンサー企業

Sponsors for IFTA 2012 Singapore



ボリンジャー・キャピタル・マネジメント
P.O. Box 3358
マンハッタン・ビーチ、カリフォルニア 90266、米国
Tel: +1 310-798-8855
Web: www.bollingerbands.com



Bollinger Capital Management
P.O. Box 3358
Manhattan Beach, CA 90266 USA
Tel: +1 310-798-8855
Web: www.bollingerbands.com



ブーケ・ド・フルーレット
E-mail: bd_fleu@mbr.nifty.com
Web: <http://bd-fleurettes.eco.coocan.jp>
メールマガジン(有料): <http://www.mag2.com/m/0001301453.html>
メールマガジン(無料): <http://archive.mag2.com/0001421750/index.html#>
Facebook ページ: <http://www.facebook.com/bd.fleurettes>
Twitter「まぶぼっと」: <http://twitter.com/#!/mabubot>



Bouquet de Fleurettes
Email: bd_fleu@mbr.nifty.com
Web: <http://bd-fleurettes.eco.coocan.jp>
"Mail Magazine" (pay): <http://www.mag2.com/m/0001301453.html>
"Mail Magazine" (free): <http://archive.mag2.com/0001421750/index.html#>
Facebook: <http://www.facebook.com/bd.fleurettes>
Twitter "Mabubott": <http://twitter.com/#!/mabubot>

TS China Research

TS・チャイナ・リサーチ
〒135-0061 東京都江東区豊洲4-9-13-610
Tel: 03-3531-9282
E-mail: tashiobj@china-research.co.jp
Web: <http://china-research.co.jp/>

TS China Research

TS China Research
4-9-13-610 Toyosu, Koto-ku, Tokyo 135-0061, Japan
Tel: 81 3-3531-9282
E-mail: tashiobj@china-research.co.jp
Web: <http://china-research.co.jp/>

IFTA 2012 Conference website 大会情報

<http://conference.ifta.org/2012/>

IFTA 2012 Conference brochure (English) 大会パンフレット

<http://conference.ifta.org/2012/docs/brochure.pdf>

IFTA 2012 Conference brochure (Japanese) 大会パンフレット(日本語)

<http://www.ntaa.or.jp/wp-content/uploads/2012/07/IFTASingaporeBrochureJapanese.pdf>

IFTA website IFTAウェブサイト

<http://www.ifta.org/>

NTAA website NTAAウェブサイト

<http://www.ntaa.or.jp/>

2012年IFTA（国際テクニカルアナリスト連盟）シンガポール大会スポンサー企業

Sponsors for IFTA 2012 Singapore



エフ・エリオット

〒146-0085 東京都大田区久が原1-32-2

Tel: 03-3755-5506

E-mail: f-elliott@f-elliott.com

Web: <http://www.f-elliott.com/>

F-Elliott

1-32-2, Hisagawara, Ota-ku, Tokyo 146-0085, Japan

Tel: 81 3-3755-5506

E-mail: f-elliott@f-elliott.com

Web: <http://www.f-elliott.com/>

IFTA 2012 Conference website 大会情報

<http://conference.ifta.org/2012/>

IFTA 2012 Conference brochure (English) 大会パンフレット

<http://conference.ifta.org/2012/docs/brochure.pdf>

IFTA 2012 Conference brochure (Japanese) 大会パンフレット(日本語)

<http://www.ntaa.or.jp/wp-content/uploads/2012/07/IFTASingaporeBrochureJapanese.pdf>

IFTA website IFTAウェブサイト

<http://www.ifta.org/>

NTAA website NTAAウェブサイト

<http://www.ntaa.or.jp/>